

# 幾山河

## 第34号

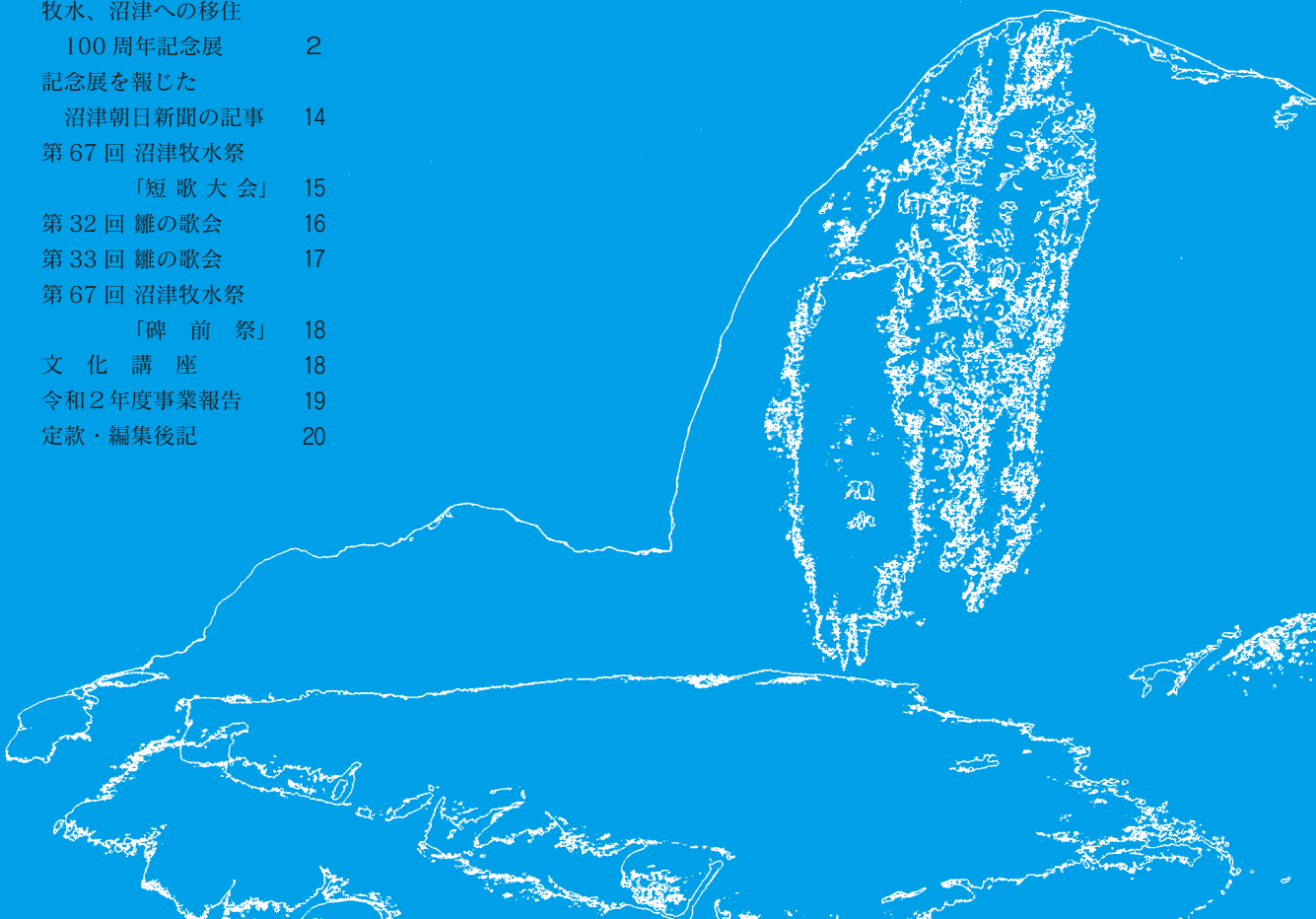
令和3年5月15日

発行

公益社団法人沼津牧水会

### 目次

|            |    |
|------------|----|
| 牧水、沼津への移住  |    |
| 100周年記念展   | 2  |
| 記念展を報じた    |    |
| 沼津朝日新聞の記事  | 14 |
| 第67回 沼津牧水祭 |    |
| 「短歌大会」     | 15 |
| 第32回 雛の歌会  | 16 |
| 第33回 雛の歌会  | 17 |
| 第67回 沼津牧水祭 |    |
| 「碑前祭」      | 18 |
| 文化講座       | 18 |
| 令和2年度事業報告  | 19 |
| 定款・編集後記    | 20 |



# 牧水、沼津への移住 100周年記念展

令和3年 2月2日(火)～3月28日(日)

小海  
松み  
の  
原  
高  
士  
の  
香  
貫  
の  
見  
ゆ  
ね  
水

沼津市若山牧水記念館

沼津市千本郷林1907-11 電話&FAX 055-962-0424 <http://web.thn.jp/bokusui>

開館時間 午前9時～午後4時30分 毎週月曜日休館(祝日に当たるときはその翌日)

主催 公益社団法人沼津牧水会 沼津市教育委員会

## ごあいさつ

若山牧水は、明治十八年八月二十四日に宮崎県東郷町坪谷（現日向市）に生まれ、宮崎県立延岡中学校（現延岡高等学校）に第一回生として学び、短歌に親しみ、早稲田大学英文学科卒業後、短歌結社「創作社」を設立して歌人としての道を歩みました。

牧水の東京での生活は、来客への応対などの忙しさから次第に仕事への影響が始めました。家族の健康の問題もあって、東京を離れて静かな田園生活をしたいと考えようになり、そのとき思い浮かんだのが、大正七年に西伊豆土肥へ行ったときに一泊し、海岸沿いに美しい千本松原があり、富士山が眺められる沼津でした。そこで、沼津生れの「創作社」社友の神部孝に依頼して探してもらった借家が香貫山の麓の「香貫の家」でした。

大正九年八月十五日に一家で沼津へ移住した牧水は、長男・旅人を伴って香貫山へ登り、次の短歌を詠みました。

海見ると登る香貫の低山の小松が原ゆ富士のよく見ゆ

沼津へ移住して最初に詠んだ短歌です。海への憧れと富士山への熱い想いが伝わってまいります。やがて、沼津での生活が気に入り、沼津への永住を決意して、大正十四年に、千本松原の一角に念願の自宅「市道の家」を新築しました。沼津を愛しつづけた牧水は、昭和三年九月十七日に「市道の家」で没しました。満四十三歳でした。

牧水が沼津に移住して百周年を迎えましたので、それを記念して、「香貫の家」に居住していた五年間に焦点を当てた展示をいたしました。どうぞ心ゆくまでごゆっくりご鑑賞ください。

令和三年 二月 二日

公益社団法人沼津牧水会  
理事長 林 茂 樹



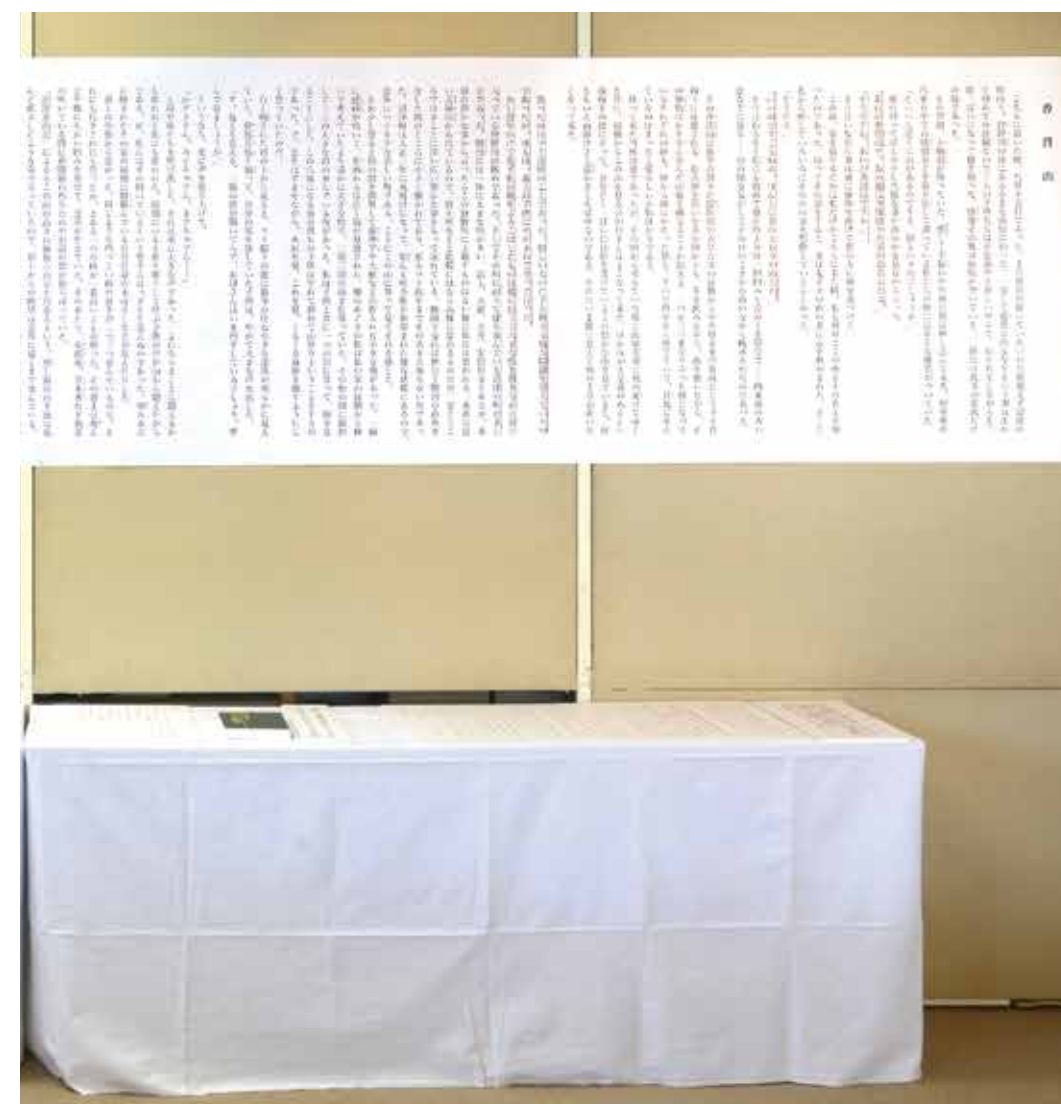


「牧水、沼津への移住 100周年記念展」の展示全景





牧水の随筆「香貫山」



(左端は、大正15年6月1日発行の沼津市の地図)



右から、沼津への移住前夜の送別会と沼津への引越挨拶状及び家族写真



右から、沼津で借家を探してもらいたいと依頼した手紙及び牧水の長女・石井みさきの『父・若山牧水』



「海みると…」の短冊と香貫山の歌碑







富士山と沼津垣



上段右から、『創作』の「大震大火記念號」・震災見舞への御礼の「はがき」  
下段は、池内紀先生が「大震大火記念號」について執筆された「記録者の目」





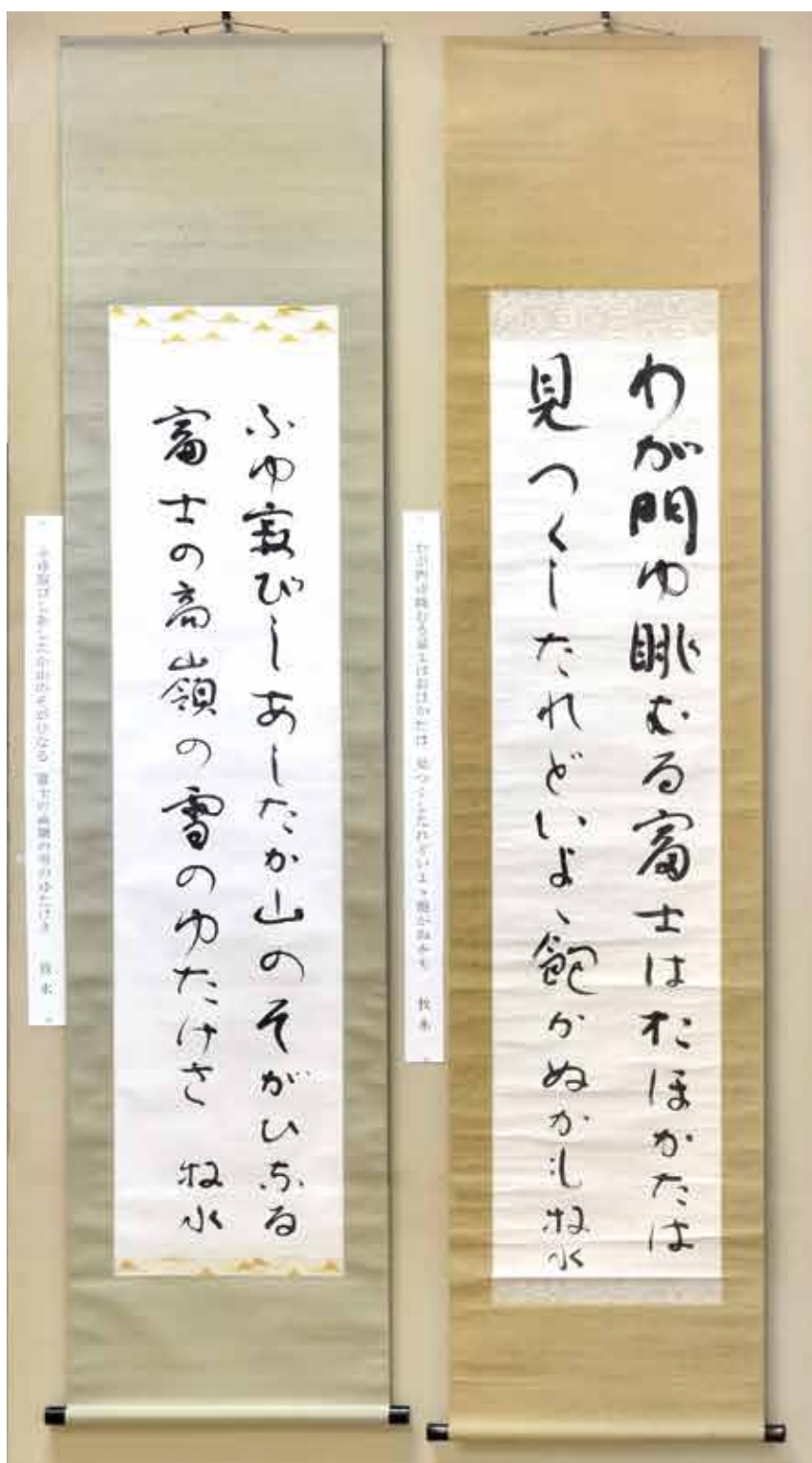
牧水の随筆「土を愛する村」から「松原」



「香貫の家」時代に発行した著書



「香貫の家」時代に詠んだ短歌の半切と「たまたまに…」の短冊



「香貫の家」時代に詠んだ短歌の半切



# 牧水一家 香貫の家での足跡

## 記念館 移住100年で企画展

大正9（1920）（樹理事長）は、牧水一家が東京での生活に終止符を打ち、当時の楊原村に転居して100年がたった。一家は、ここで5年間過ごすと、やがて千本松原沿いに「市道の家」を新築して移る。

沼津牧水会（林茂）は、牧水一家が楊原村に転居したのは大正9年8月15日だが、「東京を引き払う決心をしたので転居先の足跡を取り上げた企画展「牧水、沼津への移住」100周年記念展」を今月28日まで千本郷林の若山牧水記念館ラウンジで開催している。



企画展では「香貫の家」にまつわる牧水随筆の拡大版や写真、直筆の掛け軸などが並ぶ千本郷林の牧水記念館で

手紙で依頼した相手は、牧水が主宰した短歌結社「創作社」社友の神部孝。当時の神部は旧制沼中（現東高）を卒業した早稲田大学の1年生。牧水の後輩でもあるが、それ以上に神部が、林理事長の父親で乗運寺先代住職の輝彦師と沼中、早大で同級だったというところが今回の企画展を準備する中で分かったと言う。林理事長も知らなかったという縁が牧水によって引き寄せられた

たといったところか。8月15日、沼津に到着した牧水一家。まだ夜具が届いていないので、当夜は「沼津の町向う、狩野川の縁にある小さな宿屋」に泊まることになる。

一家でよそに泊まるなどということは初めてで、旅人、みさき、真木子の子も連3人は、宿屋の「二階」ばいになった。牧水が「香貫山」に書いた「香貫山」に、そのあたりのことが書かれている。

「少し登りかけて先ず私の眼をよるこぼしたものは麓に沿うて大きな弧を描きながら海に入っている狩野川の眺めであった。そしてその川に沿うて建ち並んでいる沼津のまちの美しきであった」

牧水が沼津に来た、初めて歌を詠んだのが、この時。歌集「くろ土」には「香貫山」と題する3首が収められているが、その詞書（ことばがき）に次のようにある。

「八月中旬、東京を引払ひて駿河沼津に在る楊原村香貫山に」

「登ったのはツイ近頃のことであつた。惜しいものに手を触るる様な躊躇（ちゅうちゅう）を覚えていたのであつたが、或る日一番上の子供にせがまれて登って行つた」

「少し登りかけて先ず私の眼をよるこぼしたものは麓に沿うて大きな弧を描きながら海に入っている狩野川の眺めであった。そしてその川に沿うて建ち並んでいる沼津のまちの美しきであった」

この第一首が沼津での創作第一号。そして、第二首が、昭和35（1960）年、香貫山中腹に建立された歌碑に刻まれた作品。

牧水一家が香貫で過ごすようになって3年目の大正12（1923）年9月1日、関東地方を大きな揺れが襲う。関東大震災である。この時、牧水は西浦古宇の宿屋にいた。

翌月の歌誌「創作」は「大震災火紀年號」として、短歌に関して3分の1程を削いで歌誌の体裁を保ちながら、残りは震災について記述。牧水の高弟、大悟法利雄の被災地報告、小学4年の旅人の「地震」と題する作文などが掲載されている。

東日本大震災から10年、先月には福島沖で震度6強をもたらし余震も発生。加えて、改めて地震への備えが問い直されている。

さて牧水は、この「香貫の家」から見える富士山を大変気に入ったようで、「わが門ゆ眺むる富士はおほかたは見つくしたけれどいよ、飽かぬかめ」を残している。

企画展鑑賞のみは無料。開館時間は午前9時から午後4時半。月曜休館。問い合わせは牧水記念館（電話96210424）。

令和3年3月7日（日） 沼津朝日新聞

# 第67回 沼津牧水祭 短歌大会

十月四日(日)  
午前十時三十分  
プラサヴェルデ  
三階会議室



第六七回「沼津牧水祭・短歌大会」は、新型コロナウイルスの感染症拡大に鑑み、会場を広い会場のプラサヴェルデに変更し、感染の防止に極力努めての開催となった。

講師に「心の花」選者で、『野球小僧』で第二四回若山牧水賞を受賞された黒岩剛仁先生をお迎えして開催された。応募短歌は九七首、参加者は六七人であった。

午前は「若山牧水と石川啄木」と題する講演。黒岩先生は、「高校一年生の時に啄木好きの教師に出会い、二期期の国語の授業は短

歌だけの授業がつづいた。それをきっかけに短歌を作り始めた。特に影響を受けたのが啄木だった。大学の卒論も啄木。そのようなことから、今回の講演は啄木を中心に置き、啄水と啄木の関係について話させてもらうことにした」と語られ、「旅」「酒」「母」など様々なテーマで啄水と啄木の短歌を取り上げて、それぞれを比較しつつ、ユーモアあふれる言葉を織り交ぜながらの話をされた。興味深い話の数々で、参加者は熱心に聴き入っていた。

午後は、出席者の出詠した短歌と先生の選ばれた短歌及び先生が特に紹介したい短歌についての講評が行われた。

一つ一つの短歌についての確かな助言をいただいた参加者たちは、先生の講評にうなずきながらメモを取っていた。先生は、読者を意識した短歌の作り方、語句の並び方やその効果、型にはまらない作り方をめざすように、など、短歌を詠む上でのわかり易い目標を提示してくださった。

黒岩先生の選ばれた沼津牧水賞三首と出詠者による互選賞七首を紹介する。

沼津牧水賞一席 東京都中野区 中安百合子  
シュリシュリと研ぐ柳刃は蒼く冴え指にすり寄り獲物をねだる

沼津牧水賞二席 沼津市 日向 葵

破裂したゴーヤは真つ赤な種を抱く八月六日 蝉声止まぬ

沼津牧水賞三席 三島市 鈴木昭紀

風狂ふ夜陰に目覚め千本浜せんぼんの潮鳴りまじる松しょう韻を聴く

市長賞 沼津市 長野堯子

我が身より知らずに落ちし貝ボタン 我の何が日毎にゆるむ

市議会議長賞 田方郡函南町 古長谷達子

座り込み冠雪の富士見上げれば力も沸いてまた鋤を振る

教育長賞 沼津市 日向 葵

破裂したゴーヤは真つ赤な種を抱く八月六日 蝉声止まぬ

日 蝉声止まぬ

商工会議所会頭賞 焼津市 増田晴夫

軽トラに乗せたる農具の陰に入りいつ時居眠る若き農婦よ

観光協会会長賞 沼津市 佐藤なほ子

コロナ禍はいつ果つるとも見通せず泥つき大根ゴシゴシ洗ふ

沼津朝日新聞社賞 伊豆市 三田紀子

放棄地にあまた小さき土の山土竜が春を掘っているらし

マルサン書店賞 沼津市 富田松枝

「駅ピアノ」リック背負いし農夫弾くごつき指先流れる如し

## 第32回 沼津牧水祭 雛の歌会

八月八日(土)  
午後一時三十分  
沼津市若山牧水  
記念館ラウンジ



梶原さい子先生をお迎えして令和二年三月七日(土)に予定されていた第三二回「雛の歌会」は、新型コロナウイルスの感染症が全国に拡大していたため、八月八日(土)に延期しての開催となりました。会場の牧水記念館ラウンジは、密閉・密集・密接の三密を避けるように椅子を配置し、換気にも十分に配慮しての歌会でした。応募短歌は六四首、参加者は三十六人でした。

まず、司会者の永久保英敏理事が、講師の梶原さい子先生について、「先生は、宮城県在住の高等学校の教員で、塔短歌会の編集委員

をされておられます。第一一回葛原妙子賞及び平成二六年度宮城県芸術選奨の受賞作の第三歌集『リアス／椿』は、東日本大震災を歌った短歌をまとめた歌集で、実際に体験したからこそ歌える短歌が多く収められており、衝撃的で臨場感を感じるものでした」と紹介し、この歌集から数首の短歌を紹介されました。

梶原先生のお声はよく通って聞きやすく思いました。丁寧な言葉で語られる出詠短歌への講評は、「うた」を詠むってそういうことかと思わせられ、これから「うた」を作る時の示唆に富むものばかりでした。

私は、言いたいことを詠んでしまします。しかし、梶原先生は、「言いたいところを敢えて言わないで、風景などの描写で表してみると、意外に作者の意図どおりに読み手に伝えることができる」と話されました。また、「自分が体験したことや実際に起きたことを並べるだけでも短歌を作ることができるが、歌ができたとき、できたとは思わずに、助詞を替えてみると、ニュアンスが変わり、印象がぐっとよくなってくることがある」と、出詠された短歌の助詞を実際に替えて、具体的に示されたことが、とても印象に残りました。

先生の爽やか講評は、「コロナ」を忘れさ

せてくれました。ありがとうございました。

心にとまった梶原先生の言葉を書いてみましたが、拙い感想のみでお許しください。

最後に、梶原先生の選ばれた一〇首を紹介いたします。  
(本会会員 勝又十枝)

ながいながいエスカレーターで振り向いた妻との間の数段つめる 北島邦夫

「両親が健在である」ということが入社試験の条件でありき 黒柳 爽

三兆円超ゆる和服が眠るらむ日本中の箆の中に 柳田はるみ

突風に吹き上げられて渦をなし落葉が小鳥の群れに変わった 村松建彦

「つう」なる女胸おみにたたみていしならむ 亡夫が手ずれの 吉川英治 青木朝子

手間かけしものとは知らず幼き日祖母にせがみし塩あんこ餅 小馬晴美

群鳩やぐいんぐいんと翻り穹そらを収斂きんしてゆくごとし 河田琴栄

天国に宅急便で送りましたしドッグフードにささみを添えて 日向 葵

冬の海へだてる千葉の震度3友住む町名テロップにさがす 尾崎知子

バス停にとおく見ておりセキレイの尾にアスファルト叩くしずもり 伊藤 純



# 第33回 沼津牧水祭 雛の歌会

三月十三日(土)  
午後一時三十分  
プラサヴェルデ  
三階 会議室



馬場あき子先生を講師にお迎えしての第三  
三回「雛の歌会」は、令和三年三月一三日(土)  
にプラサヴェルデで開催されました。新型コ  
ロナウィルスの感染を予防し、密閉・密集・  
密接の三密を避けるため、広い会場での開催  
となりました。応募短歌は九四首、参加者は  
八七人で、出席者には、マスクの着用と受付  
での検温と手の消毒が徹底されました。

馬場あき子先生は、最初に、若山牧水の短  
歌について、次のように語られました。

牧水の短歌は、心を映す「うた」であり、  
叙情詩であるところづく感じます。「か  
なしい」という単語を入れるのはだめな  
「うた」だといわれるが、牧水は「白鳥  
は哀しからずや空の青海のあをにも染ま  
ずただよふ」と詠み、この「哀しからず  
や」がないと成り立たない「うた」です。  
「海を見て世にみなし児のわが性は涙わ  
りなしほほゑみて泣く」では、自然の大  
きさに比べて自分の小ささや無力感を  
「みなし児」にたとえている。世間一般  
でいう「みなし児」とは違う意味ではな  
いかと思う。また、牧水には自然を詠ん  
だ「うた」が多い。

出席者は、馬場先生の明るく力のこもった  
お声でのお話に聴き入りました。

次に、出詠者の短歌への講評で、短歌には  
読者がいることを意識して、初めて読む読者  
に状況がわかるように詠まなければならぬ。  
面白いと思うものを作らないといけない。洒  
落た言葉では真実は伝えられない。比喻を使  
えばよいというものではない。大きい比喻を  
使うと損をする場合もある。上の句と下の句  
をどうつなげるかが大事であり、下の句に上  
の句の答えがないといけない。等々、短歌を

作る上での大切なことを話されました。

先生のお話は、明快でわかりやすく、笑い  
声の絶えない楽しくて充実した素敵な歌会に  
なり、出席者は皆、満足感いっぱいでした。

先生の選ばれた一〇首は、次のとおりです。

早春は光と共に訪れる草の芽真つすぐ  
空を見上げて 葛岡昭男  
庭先の水仙一輪壺にあり亡妻と歩きし  
越前遙か 勝俣徳夫  
あれそれにて会話成り立つ夫とわれ老い  
るといふは不思議なること 年川たみ  
杖を曳きやつと歩いてゐるけれど宇宙  
遊泳楽しんでます 前田鐵江  
柴犬は車の窓より顔を出し自肅の街を  
視察するらし 湯山昌樹  
昨日だったと今気づいたが愛すべき敵  
は気づかず結婚記念日 北島邦夫  
青空を映すビル街水槽の底に似たと  
想いつ歩む 菅野隆江  
七草を採るアルバイトの条件は雨天決  
行 雅にあらす 小林慧子  
冬枯れの畑に残る葉野菜のブロッコリ  
ーのみ鳥啄ばみぬ 東川勝範  
強弱の風にのりつつ風あげを程よき距  
離に保つ父と子 小松和子



第67回 沼津牧水祭 碑前祭  
十月十八日(日)午前十一時

令和元年の十二月に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスによる感染症は、わが国でも、令和二年四月には緊急事態宣言が発令されるほどに広がり、世界各地での感染者数等について、新聞やテレビで報道されない日はありません。早く終息してほしいものです。

毎年、千本浜公園の牧水歌碑前で開催される沼津牧水祭「碑前祭・芝酒盛」は、新型コロナウイルスの感染拡大に考慮して中止されましたが、予定していた令和二年十月十八日(日)午前十一時から、林茂樹理事長と沼津牧水会の役員と会員有志のほか、取材に来た渡辺敏沼津朝日新聞社編集長も参加して、歌碑への献花と献酒が行われました。河辺龍二郎理事による牧水の短歌の朗詠につづいて、林理事長が献花と献酒を行い、参加者が一人ずつ献酒をしました。一升では足りず、二升の清酒が歌碑にたつぷりとかけられました。牧水もさぞ喜んでいることでしょう。

令和三年度の「碑前祭・芝酒盛」が、例年どおり、大勢の人が集い、にぎやかに開催されることを願っております。

## 文 化 講 座

### 初心者のための短歌講座

日 時 令和2年6月～令和3年2月  
毎 月 第2土曜日 午前(全7回)  
講 師 永久保 英 敏 氏



### 牧水記念館短歌会

日 時 令和2年6月～令和3年2月  
毎 月 第2土曜日 午後(全7回)  
講 師 永久保 英 敏 氏



# 令和 2 年度 事業報告

## 総 会

第34回 定時会員総会 令和2年5月8日(金)午後6時～6時45分

## 理事会

- 第1回(通算175回) 令和2年4月15日(水)午後6時～7時40分
- 第2回(通算176回) 令和2年5月8日(金)午後6時45分～7時
- 第3回(通算177回) 令和2年7月28日(火)午後6時～6時30分
- 第4回(通算178回) 令和2年8月9日(日)午後4時～6時15分
- 第5回(通算179回) 令和2年10月18日(日)午前11時45分～午後0時35分
- 第6回(通算180回) 令和2年11月23日(月)午後4時～4時50分
- 第7回(通算181回) 令和3年3月2日(火)午後6時～7時

会 報 第33号 令和2年5月15日発行

館 報 第65号 令和2年9月1日発行  
第66号 令和3年3月1日発行

## 1 調査研究事業

- (1) 第70回 日向市の「牧水祭」(主催:日向市、日向若山牧水顕彰会)
  - 日 時: 令和2年9月17日(木)午前9時30分
  - 会 場: 日向市東郷町坪谷 若山牧水生家裏牧水歌碑前及び牧水公園「ふるさとの家」
  - \*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、関係者のみでの開催となった。
- (2) 第64回 暮坂峠「牧水まつり」(主催:牧水詩碑保存会)
  - 日 時: 令和2年10月20日(火)午前11時
  - 会 場: 群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠
  - \*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、中止された。
- (3) 第21回「百草園牧水歌碑祭」(主催:東京牧水会)
  - 日 時: 令和2年10月下旬～11月上旬頃
  - 会 場: 東京都日野市百草 京王百草園 牧水歌碑前
  - \*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、中止された。
- (4) 第25回 若山牧水賞授賞式
  - (主催:宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎日日新聞社、延岡市、日向市)
  - 日 時: 令和3年3月16日(火)
  - 会 場: 授賞式 宮崎市 宮崎観光ホテル
- (5) 第87回 延岡市の「牧水歌碑祭」(主催:若山牧水延岡顕彰会)
  - 日 時: 令和3年3月
  - 会 場: 延岡市 城山公園内 牧水歌碑広場
  - \*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、中止された。

## 2 第67回 沼津牧水祭の運営

- (1) 短歌大会
  - 日 時: 令和2年10月4日(日)午前10時30分～午後3時
  - 会 場: プラサヴェルテ 3階会議室
  - 講 師: 黒岩 剛仁氏(「心の花」選者、第24回若山牧水賞受賞者)
  - 応募短歌: 97首
  - 参 加 者: 67人
- (2) 碑前祭・芝酒盛
  - 日 時: 令和2年10月18日(日)午前11時～11時30分
  - 会 場: 千本浜公園 牧水歌碑前
  - 参 加 者: 18人
  - \*新型コロナウイルスの感染症拡大防止のために中止し、役員と会員有志で献花と献酒を行った。

## 3 「牧水、沼津への移住 100周年記念展」

日 時: 令和3年2月2日(火)～3月28日(日)  
会 場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ  
入 場 者: 534人

## 4 文学講演会及び文学講座等の開催

- (1) 第32回「雛の歌会」
  - 日 時: 令和2年8月8日(土) 午後1時30分～4時
  - 会 場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
  - 講 師: 梶原 さい子氏(「塔短歌会」編集委員)
  - 応募短歌: 64首
  - 参 加 者: 36人
  - \*令和2年3月7日(土)に開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染症拡大に鑑み、延期しての実施。

## (2) 第33回「雛の歌会」

日 時: 令和3年3月13日(土) 午後1時30分～4時40分  
会 場: プラサヴェルテ 3階会議室  
講 師: 馬場 あき子氏(「かりん」発行人、朝日歌壇選者)  
応募短歌: 94首  
参 加 者: 87人

## (3) 初心者のための短歌講座

日 時: 令和2年6月～令和3年2月 毎月第2土曜日  
午前10時～12時  
会 場: 沼津市若山牧水記念館会議室  
講 師: 永久保 英 敏 氏  
参 加 者: 7回開催 延べ118人

## (4) 牧水記念館短歌会

日 時: 令和2年6月～令和3年2月 毎月第2土曜日  
午後1時30分～3時30分  
会 場: 沼津市若山牧水記念館会議室  
講 師: 永久保 英 敏 氏  
参 加 者: 7回開催 延べ49人

## (5) 牧水記念館俳句会

榎本好宏先生を講師として開催する予定であったが、講師の都合で令和元年度未だ開催とならなかった。

## (6) 書道講座

成田真洞先生を講師として開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染を避けるため、今年度は中止した。

## (7) 第31回「中学生短歌コンクール」募集・表彰

募集期間: 令和2年5月1日(金)～令和2年8月31日(月)  
応募短歌: 1,530首(19校 1,530人)  
入選短歌: 50首  
選 者: 青木 朝子、永久保 英 敏、河本 尚子  
表 彰: 例年「沼津牧水祭・碑前祭」で行ってきたが、新型コロナウイルスの感染症拡大防止のために碑前祭を中止したので、各学校に表彰を依頼した。

## (8) 音楽イベント

新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、実施しなかった。

## 7 その他の事業

### (1) 協賛事業

第91期 ヒューリック杯「棋聖戦」第3局

渡辺明棋聖 対 挑戦者・藤井聡太七段

令和2年6月27日(土)対局、6月26日(金)前夜祭

(主催:産経新聞社、公益社団法人日本将棋連盟、日本将棋連盟沼津支部、第91期棋聖「棋聖戦」第3局開催実行委員会)  
(特別協賛:ヒューリック株式会社)

(後援:沼津市、沼津市教育委員会、沼津商工会議所、沼津市商工会、沼津観光協会、沼津倶楽部、沼津牧水会、プロジェクトN)

\*新型コロナウイルスの感染症拡大の懸念から、タイトル戦の地方での開催が中止され、沼津での開催も中止となった。



## 公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
- 第二条 この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の二に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もつて、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会、文学講座等の開催
- (4) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人に次の会員を置く。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、会員総会の決議をもって推薦されたもの
- 第六条 前項の会員をもつて、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- この法人の会員にならうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもつて会員となるものとする。
- この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。
- 第七条
- 公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程
- 第一条 この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
- 第二条 定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 第三条 定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 五、〇〇〇円（年額）
- (2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上（年額）

（理事長）林 茂樹（副理事長）浅井 治 保坂 輝夫  
 （理事）田中 和男 金子 安夫 四方 一弥 長澤 靖夫 青木 朝子  
 河辺龍二郎 永久保英敏 河本 尚子 飛澤浩四郎  
 （監事）鈴木 弘行 栗原 進  
 （事務局）大島 葉子 伊藤早智子 納谷 瑞穂 市川 悦子

## 編集後記

新型コロナウイルスによる感染症が一向に終息する気配がありません。この影響で、沼津牧水祭「碑前祭・芝酒盛」は、代表者による献花と献酒だけにせざるを得ず、「牧水記念館コンサート」も開催できませんでした。

沼津牧水祭「短歌大会」は、講師に黒岩剛仁先生をお迎えし、会場をブラサヴェルデに変更して一〇月四日（日）に開催し、延期していた梶原さい子先生をお迎えしての令和元年度の「雛の歌会」は、八月八日（土）に開催しました。また、令和二年度の「雛の歌会」は、馬場あき子先生をお迎えして、広い会場のブラサヴェルデで三月一三日（土）に開催し、参加者に大いによりこんでいただきました。これらのイベントは、新型コロナウイルスの感染防止に留意して開催しましたが、一人の感染者も出さずことなく盛会裏に催すことができ、関係者一同ほっとしております。

「短歌講座・短歌会」は開催しましたが、平成二十年四月から開講してきた「俳句会」は、講師の榎本好宏先生のご都合で、令和元年度末をもって閉じさせていただきました。「書道講座」は、新型コロナウイルスへの感染を避けるため、令和二年度は休講としました。

牧水が、大正九年八月に沼津へ移住してから百周年を迎えたのを記念して、「香貫の家」に居住していた五年間に焦点を当てた「記念展」を年度末に開催しました。展示の内容と取材をしてくれた沼津朝日新聞の記事を掲載しましたので、「記念展」をご覧になれなかった方々には、ぜひ目をとoshいていただきたいと思います。

本年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます。